

英語

Unit5 Cell Phone – For or Against?

3年1組

授業者 大和田 由香利・渡辺 潤子・A E T

■ 単元の目標

- 自分の立場に合った意見を論理的に考え、聞き手にわかりやすく伝えることができる。
- 相手の意見を聞き、概要や要点を聞き取ることができる。

■ I C T 活用の視点

○ 思考を促す道具としての ICT の活用

第一立論をプロジェクターで投影し、相互の柱となる意見を「聞く」「読む」両方の力を使って正確に捉えることで、その後の展開をより深いものにすることができる。

○ 創造性を促す道具としての ICT の活用

論の展開の中で、各派の意見の裏付けとなるデータ等を映し出す。相手の意見をより深く理解することで、自分たちの意見をより論理的なものにすることができます。

○ 本時における ICT 機器の位置づけ

ディベートの性質上、生徒が「話す」ことがメインとなるが、発展的な内容になればなるほど、聞くだけでなく、視覚的補助がある方が聞き手の理解は深まる。今回は事前の準備こそあるものの、発展的な論の展開となる。そこで最も核となる部分を全員が正確に理解できるよう、プロジェクターを用いる。

■ 本時の授業の概要

2つの課題に対し、賛成・反対の立場を取っている各グループがディベートを行う。プロジェクタで各派の考えを投影し、「聞く」だけでなく「読む」力も駆使して理解を深める。また各派のデータ等を映し出すことでより説得力のある論を展開し、どちらの派がより論理的であったかをジャッジする。

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| 1. 本時の学習課題・進め方の確認をする。 | 個々の生徒が課題意識を持つて取り組めるようにする。 For or Against?! ~Tell your opinion~ |
| 2. 1st ディベート 【Team C-D】 ①肯定側立論(2) ②否定側質疑(1) ③否定側立論(2) ④肯定側質疑(2) ⑤作戦タイム(1) ⑥否定側1反駁(2) ⑦肯作戦タイム(1) ⑧肯定側1反駁(2) ⑨否作戦タイム(1) ⑩否定側2反駁(2) ⑪肯作戦タイム(1) ⑫肯定2反駁(2) ⑬判定 | 第一立論をプロジェクタで投影する。 時間を守って進めるよう注意を促す。 聞き取れないときには "Please speak louder." "Will you speak more slowly?" "You mean...". 等で確認し、意見を正確に捉えるよう促す。 |
| Team C,D 以外の生徒は各派の意見を聞きながらフローチャートを書く。 | フローチャートに戸惑っている生徒には記号等を用いて簡潔に書くよう促す。 |
| 3. 2nd ディベート 【Team G-H】 Team G, H は前に出る。 1st と同じ流れで進める。 | 相手の立論に対してきちんと反論しているか、言いたいことが英語で伝わったか(聞いていてわかったか)等も考慮し、論題に対して筋の通った意見かどうかで判定するよう助言する。 |
| 4. 本時の授業の振り返りと自己評価を行う。 | ワークシートに本時の活動の自己評価を記入させる。 |